

日本語プログラム											
専攻	研究部門	研究指導		出願コード		主担当教員				副担当教員	
				修士課程	博士後期課程						
経営システム工学専攻	-	ソフトウェア工学研究	ソフトウェア工学全般、特にソフトウェアデザインの研究。ソフトウェアモデリング、ソフトウェアアーキテクチャ、ソフトウェアデザイン検証、ソフトウェアデザイン手法、ソフトウェア開発環境、ソフトウェアログクローンなどを扱う。	F17	F67	教授	博士(情報科学)(北陸先端科学技術大学院大学)	岸 知二	klshi@waseda.jp		
経営システム工学専攻	-	情報処理応用研究	情報処理やパターン認識と機械学習の理論を基礎としつつ、経営工学分野を情報処理への応用に関する研究を扱う。基礎理論、基礎技術研究として、情報理論、機械学習、統計モデル、ベイズ統計、自然言語処理、テキストマイニング、情報検索などの分野を扱い、応用研究分野として、大規模データ分析、マーケティング分析、ビジネスナリティクスの分野などを扱う。	F16	F66	教授	博士(工学)(早稲田大学)	飯島 正幸	masagoi@waseda.jp		
経営システム工学専攻	-	人間生活工学研究	ヒューマンファクターズ、特に、人間が関わるシステムの設計・運用・管理の方法論及び技術、人間の自然な行動に関する認知・行動モデルの開発研究を行う。	F05	F55	教授	博士(工学)(早稲田大学)	小松原 明哲	komatsubara.ak@waseda.jp		
経営システム工学専攻	-	システム論研究	システム論全般を関心領域としている。特に、組織、社会、経済などの複雑適応システムの環境適応の問題、ビジネス複雑性下での意思決定支援などに対するエージェントベース社会シミュレーションや数理モデル分析など数理的、計算論的なアプローチ、科学技術政策支援へのシステムアプローチ、参加型意思決定及び政策形成支援へのソフトウェアシステムアプローチなどである。	F11	F61	教授	理学博士(東京工業大学)	高橋 真吾	shingo@waseda.jp		
経営システム工学専攻	-	統計科学研究	数理統計学および応用統計学に関する研究。特に統計的決定理論、統計的多重比較法、統計的多重解析法に関する理論と応用。	F12	F62	教授	工学博士(大阪大学)	永田 晴	ynagata@waseda.jp		
経営システム工学専攻	-	知識情報処理研究	人工知能と知識処理応用。特に知的エージェント、マルチエージェントシステム、Web Intelligence技術、Wisdom Web (e-ビジネス、e-ラーニング、e-コミュニティ設計)など、共創型知識コミュニティの構築とその応用に関する研究。	F15	F65	教授	博士(情報科学)(京都大学)	藤山 玲子	reiko@waseda.jp		
経営システム工学専攻	-	計画数理学研究	数理計画法やネットワーク最適化を用いた意思決定、オペレーションズ・リサーチに関する研究。特に、確率定数や言語情報解析の柔軟性、人間心理といった不確実・不確定性状況下での意思決定に関する基礎理論、および最適資産配分、サプライチェーン、観光施策、対話型意思決定支援システムへの応用研究を行う。	F20	F70	教授	博士(情報科学)(大阪大学)	蓮池 隆	tbasuik@waseda.jp		

日本語プログラム

専攻	研究部門	研究指導		出願コード		主担当教員				副担当教員		
				修士課程	博士後期課程							
経営システム工学専攻	—	オペレーションズリサーチと最適化研究	オペレーションズ・リサーチと最適化の研究。特に大規模最適化、整数計画法などの手法を用いた数理モデル化とリスクを最小化するための、確率計画法、意思決定に関する研究を行う。	F19	F69	教授	博士（工学） （早稲田大学）	椎名 孝之	tshiina@waseda.jp			
経営システム工学専攻	—	生産システム工学研究	情報技術（ICT）を駆使して、持続可能な社会を支える知的機械生産システムを設計・運用するための研究開発を行う。具体的には、進化型計算アルゴリズムによる動的スケジューリング、経済性と環境保全を両立するグリーンサプライチェーンマネジメント、大規模災害におけるサプライチェーンレジリエンス、次世代セル生産システムなどの研究開発を行う。	F21	F71	教授	博士（工学） （大阪大学）	谷水 義隆	tanimizu@waseda.jp			
経営システム工学専攻	—	マルチエージェントシステム研究	社会は多様な意思決定主体（エージェント）によって構成される。エージェント間の関係には、チームに代表される協調的關係と、市場に代表される競争的關係がある。マルチエージェントシステムの基礎研究では、社会科学の知見を採り、そうした関係を模倣する計算モデルを提案する。一方、マルチエージェントシステムの応用研究では、社会の複雑な振る舞いを基礎研究の成果を用いて説明し、問題点を抽出し解決を図る。	—	F72	教授	博士（工学） （京都大学）	石田 亨	toru.ishida@ani.waseda.jp			